

病虫害発生予察注意報第 2 号

佐賀県

作物名：大豆、野菜類、花き類
病虫害名：ハスモンヨトウ



1. 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) 定期調査における圃場での発生状況

(1) 大豆における調査（9月13～20日、県内22圃場）では、幼虫の発生株率は4.2%（平年4.9%、前年1.2%）と平年並であったが（図1）、発生圃場率は77.3%（平年48.1%）と平年より高かった。また、幼虫の食害による白変葉の発生株率は4.0%（平年1.0%、前年0.4%）と平年より高かった。

(2) イチゴにおける調査（9月13～22日、県内16圃場）では、チョウ目幼虫による食害株率は0.5%（平年1.2%、前年1.3%）と平年並であった（図2）。

2) トラップにおける誘殺状況

(1) 県内8地点に設置したフェロモントラップでの雄成虫の誘殺数は、9月5半旬に急増し、平年より多く、過去10年間で最も多い（図3）。

3) 気象要因

(1) 九州北部地方の1か月予報（福岡管区气象台9月28日発表）では、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の発生に好適な条件となっている。

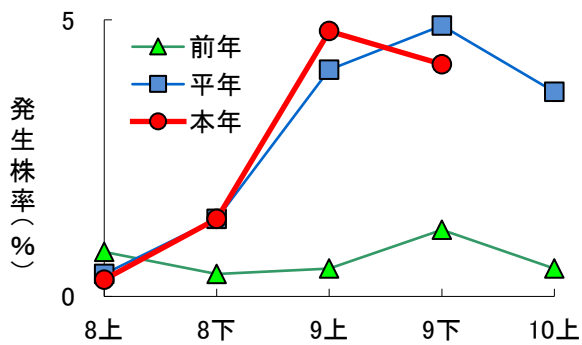


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

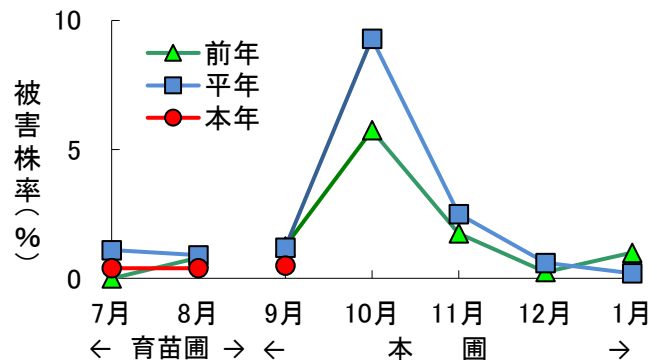


図2 イチゴでのチョウ目害虫による被害株率の推移

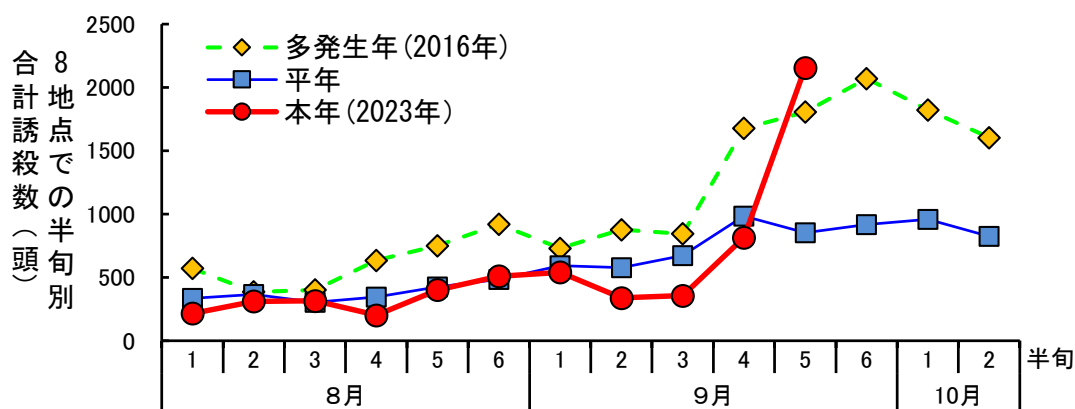


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数
(農業共済組合、農業試験研究センター調査による県内8地点の平均誘殺数)

3. 防除上注意すべき事項

- 1) 発生状況は圃場ごとに大きく異なるため、必ず圃場の発生状況を確認し、幼虫の発生が認められた圃場では早急に防除を行う。
- 2) 幼虫は、齢が進むと薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫期に防除を行う。
- 3) 幼虫は日中は物かげにかくれ、夜間に活動する習性があるため、薬剤散布は夕方に行う。
- 4) 薬剤防除にあたっては、登録内容（希釈倍数、収穫前日数等）を遵守し、かけむらが無いよう、丁寧に散布する。なお、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- 5) フェロモントラップ調査では、シロイチモジヨトウおよびオオタバコガの誘殺数も増加している。寄生する種によって薬剤に対する感受性が異なるため、圃場を確認し、寄生する種に応じた薬剤を選択する。
- 6) 圃場周辺の雑草は増殖源となるため、除草を徹底する。
- 7) 施設栽培の野菜・花き類では、開口部に防虫ネット（4ミリ目以下）を設置して成虫の圃場内への侵入を防ぐ。
- 8) 今後の発生状況は当センターが発表する各種情報及びホームページを参考にし、防除対策の詳細は「佐賀県病害虫防除のてびき」を参照する。

○佐賀県病害虫防除のてびき掲載アドレス

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>



連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952)45 - 8153 FAX (0952)45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

